



# つちおと

## = 祝 = 第1号の「竣工式」!



完成予想図 (南三陸町資料より)

12月21日(土)、南三陸町戸倉地区「藤浜団地」の造成工事が完了したことを祝い、現地にて竣工式が挙行されました。

支所管内で進められている防災集団移転促進事業に先駆け、第1号の造成完了となった当地区は、被災から間もなく話し合いを開始、様々な課題を協力して乗り越えていち早く晴れの日を迎えられました。式には、この団地に移転されるみなさんはじめ、

事業主体である南三陸町、関係機関など約60名が参列し竣工を祝いました。移転者を代表してご挨拶された佐藤安正藤浜行政区域長は、待ちに待った新居に対する夢と希望を「この年末年始は、新しい家の算段をしながら過ごす」と言葉に込められました。春には家の新築が始まり、お盆は新居で迎える方も…。あとひとふんばり、「完成」に向けて進みましょう!



テープカットで完成を祝う

## 衆議院「東日本大震災復興特別委員会」による視察

12月19日(木)、気仙沼市鹿折地区を中心に、東日本大震災復興特別委員会による視察が行われました。陸前高田市を視察した後に気仙沼入りした一行9名は、鹿折小学校の特設会場で菅原市長より要望書の提出を受けるとともに、気仙沼市の幹部より、市の復興状況について説明を受けました。

その後、鹿折の仮設商店街「復幸マルシェ」において、塩田代表はじめ商店主の方々と意見交換されました。商店主の方々から、鹿折地区区画整理事業で仮設店舗が移設となることへの不安、グループ化補助金の弾力的運用などについて意見が出されました。

この後、鹿折地区の区画整理事業、水産加工集積エリアを視察して、予定行程を滞りなく終えました。



視察の様相(上:鹿折小学校、下:復幸マルシェ)

◆平成25年も残すところ数日。被災され自宅を失った多くの方々には、仮設住宅で3度目のお正月を迎えることに…。21日、県内トップで防集団地の造成工事が竣工したが、これに続け!と各地で鏈音が響き始め、また、災害公営住宅の工事も進められている。まだ課題を残す事業もあるが、1日も早く「安住の地」に落ち着けますよう、復興庁も支援策をさらに充実して参ります。◆ある漢字検定を行う法人が行った「今年の漢字」。公募で最多の一字は『輪』であった。7年後の東京オリンピックの影響が大きいと思われるが、被災地では手放しで喜べないとの不安も。人材、資材が東京へ向けば、復興に遅れを生じるという心配である。確かに、しっかり注視していかなければならない。復興なくして五輪の成功はないという事は明白。◆皆さま、今年一年お疲れ様でした。来年は良い一年でありますように… (山)



今年の漢字『輪』

## ～ 復興支援インターンシッププロジェクト ～

今回は、第15号でも紹介したこのプロジェクトのその後の取り組み状況についてお知らせします。

東北学院大学（復興大学災害ボランティアステーション※）によるこのプログラムは、被災地外の学生が被災企業で職業体験を実施し、職業体験を通じて感じ・学んだ被災地及び被災地産業の現状を被災地外で情報発信するというもので、宮城復興局も支援しています。

プログラムの中では、「震災を忘れない」「伝える」ために、大学生が被災地外の各地で復興状況の情報発信や産品販売による企業活性化などの取り組みを行っております。気仙沼、南三陸においても実績があり、地域復興に貢献しています。次ページの一覧に、これまでのインターン後の報告会や情報発信の具体的な取り組みのうち主なものをご紹介します。

## 西南学院大学

大学祭における展示、  
物品販売の様子



## 神戸学院大学

大学祭における物品販売の様子



このほか、12月13日～14日に東北学院大で復興大学災害ボランティアステーション主催のシンポジウムが、宮城復興局共催として開催され、このシンポジウムの中で、復興支援インターンに参加した3大学（早稲田大、名古屋学院大、西南学院大）の学生から、取り組みの発表及び報告などが行われました。

復興支援インターンシッププロジェクトの取り組みは、被災地外地域の新聞やテレビにより報道されています。

例えば、宮城県に多くの職員を派遣している兵庫県では、県の広報番組「ひょうご“ワイワイ”」で神戸学院大学による取り組みが11月10日に放送されました。

<http://www.sun-tv.co.jp/yy/movie/tutaeru/131110.html>

（掲載動画）シリーズ企画「忘れない～伝える・備える～(6)神戸で発信！被災地の「今」」

学生からは「被災地に行くことが復興の手助けになる。まだ出来ることがある。忘れられないように伝えたい。」、被災地外の人からは「被災地に行けない分、物販購入で協力したい。復興をこれからも応援したい。」等声があり、若い世代の学生には被災地で学んだことをこれからは生かしてほしいと思います。

※復興大学災害ボランティアステーションとは・・・

宮城県内の大学などでつくる学都仙台コンソーシアムによる復興大学プロジェクトの一つ。被災地支援活動におけるミスマッチを減らすと同時に、地域間・内の連携をつなぐ仕組みの実現を目的とした活動が行われています。

「復興支援インターンシップ」プログラムを契機に実施された復興支援の取り組みです。

「復興支援インターンシップ」プログラムによるこの秋の学園祭等での情報発信の具体的取り組み一覧		
大学	イベント	概要
○早稲田大学	・オープン授業「環境とボランティア」での報告会	300名近く受講。プロジェクトに参加した3チームが授業全体（1.5時間）で活動報告を行い、ディスカッション。
	・早稲田祭での物販コーナーと報告会	早稲田祭（11/2・3）で物販コーナーの実施とプロジェクトに参加した3チームの活動報告会。
	・気仙沼フェア	「食」を通じて東北、震災に関心を持ってもらうための取り組み。 ・学食新メニュー「気仙沼フカヒレつけ麺」限定販売 ・フレッシュ製パン「クリームサンド」限定販売
○大阪学院大学	・パネル展示	気仙沼の地元紙である三陸新報社から震災時のパネルを借り、展示。
○中央大学	・大学祭「白門祭」	大学祭にて、プロジェクト参加メンバーがお世話になった阿部長商店の商品を販売して、気仙沼をアピール。
○西南学院大学	・大学祭での模擬店出店	気仙沼のプロジェクトに参加した学生が（株）加和喜フーズ「ワカメスープ」、（株）中華高橋水産「シャークナゲット」を提供。南三陸のプロジェクトに参加した学生がパネル展示。
	・福岡県主催 災害サポーター養成講座	学生ボランティア団体「いと」の活動報告の中で、気仙沼のプロジェクトに参加したチームが報告。
○神戸学院大学	・大学祭	大学祭にて、プロジェクト参加メンバーがお世話になったヤマウチの商品を販売して、南三陸をアピール。 あわせて、インターン報告を展示し被災地の状況を情報発信。
○麗澤大学	・大学祭「麗陵祭」	「復幸（復興）応援サークル れい⇄ほく」による活動報告ならびに紹介、復興応援物品の販売。
○名古屋学院大学	・復興支援インターン報告会 ～被災した魚のまちの今～	気仙沼と南三陸の地域や企業が東日本大震災でどう変わり、復興とどう向き合っているかについての学生による報告。

参加した学生、その学生たちの活動に触れた多くの方々に、改めて被災地の現状と支援の継続の必要性を訴えた取り組みになったようです。

本プロジェクトは、今後も継続する方向で調整を進めています。

### 第7回復興交付金交付可能額通知

10月上旬に被災自治体から提出された復興交付金事業計画に対して、11月29日に交付可能額の通知を行いました。6県に対して通知を行い、その合計の事業費は約2,338億円、うち気仙沼市については、埋蔵文化財発掘調査事業、漁業集落防災機能強化事業、災害公営住宅整備事業等に約199億円、南三陸町については、学校施設環境改善事業、津波復興拠点整備事業、災害公営住宅整備事業等に約59億円となりました。

これまで、平成23年度から7回にわたって復興交付金の交付可能額の通知を行っているところ、気仙沼市については合計事業費で約1,832億円、南三陸町については合計事業費で約952億円を配分しています。

次回(第8回)の事業計画の提出受付時期は被災自治体の作業状況等を踏まえて検討することとしています。引き続き、当支所としても、気仙沼市と南三陸町の事業計画の作成や事業の施行に協力して参ります。

### ナンプレにチャレンジ!!

		9	8	4		1	3	
		8		5	1		7	2
6	7							5
9							2	
1	5			3			6	8
	8							1
8							4	7
4	1		9	7		8		
	3	6		8	4	2		

#### ルール

- ・9マスごとの縦の列と横の列にそれぞれ1から9の数字が1つずつ入ります。
- ・太枠で囲まれた9マス(縦3マス、横3マス)にそれぞれ1から9の数字が1つずつ入ります。

#### 【編集後記】

◆年末の寒さ厳しくなるこの季節、関東方面から気仙沼に転勤してきました。毎日寒いですが、私の出身は島根県(意外と雪が積もる県)です。寒さには強く、毎朝山(宿舎)と山(職場)との自転車通勤で更に強化中です。みなさんは風邪にお気を付けください。

(前号のナンプレの回答)

4	6	9	3	7	8	2	5	1
1	7	5	6	2	9	4	8	3
8	3	2	5	4	1	6	7	9
2	1	7	9	5	4	3	6	8
3	9	8	7	1	6	5	4	2
6	5	4	2	8	3	1	9	7
7	8	6	1	3	5	9	2	4
9	4	3	8	6	2	7	1	5
5	2	1	4	9	7	8	3	6

### 冬の華 シクラメン



緑が乏しい冬に彩りを添えるものの代表格といえば、「シクラメン」です。この時期は、フラワーショップはもちろん、町のあちらこちらで色とりどりの鉢植えを目にします。和名のひとつに「豚の饅頭」というのがあるそう。ちょっと気の毒な感じも…花言葉は…「きずな」です。

これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます

- ①復興庁のホームページ
- ②宮城復興局
- ③気仙沼支所だより「つちおと」

「つちおと」発行元(お問い合わせ先)

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所  
 電話 0226-23-5301  
 FAX 0226-23-5310

復興庁ホームページ  
<http://www.reconstruction.go.jp/>